

J A 全農 ちば 営農情報集

2022

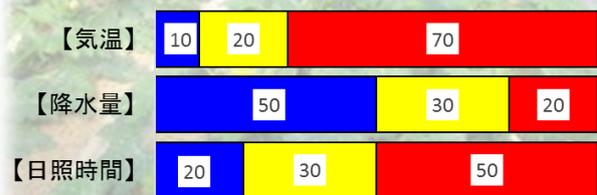
8

今月の情報

1. 水稲 令和4年産米最後の仕上げ
2. 園芸野菜 病害虫防除情報
3. いちご定植前(育苗期)病害虫防除プログラム
4. 加工用途向けブロッコリー品種について
5. 安全な農作物生産の取り組みについて～農作業事故防止～

8月の気象について（気象庁8/4発表 長期予報（1か月）から）

1. 8月は平年よりも気温が高くなる予報となっています。害虫の発生には特に警戒しましょう。また、近年は気象の変化が極端化しています。急な高温や豪雨などに注意し、適切な対策を実施しましょう。
2. 気温が高くなりますので、作業中の熱中症対策（本誌7月号参照）を徹底しましょう。



凡例 ■：低い ■：平年並 ■：高い



全農では農業施設の台風対策・パイプハウスの建て方動画などを公開しています

アピネスアグリインフォ自然災害対策をご参照ください

HP : <https://www.agri.zennoh.or.jp/N_index.aspx>または「アピネス」で検索🔍

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

令和4年産米 最後の仕上げ

～適期収穫と乾燥・調製について～

JA全農ちば
営農支援部

1. はじめに

梅雨明け後（関東甲信6月27日）、気温は高く推移しました。「ふさおとめ」「ふさこがね」は例年より3日早い出穂期となり、「コシヒカリ」「粒すけ」は平年並みに出穂期を迎えています。「ふさおとめ」「ふさこがね」は穂長がやや長めとなっている様です。

成熟期は4月20日植えの「ふさおとめ」が8月10日から、「ふさこがね」は8月15日から、「コシヒカリ」「粒すけ」は8月25日からと予測されています。

成熟期の判断について、いつもより葉色が薄い場合や水が不足している圃場は成熟期が早まる可能性があるため、成熟期の判断には注意しましょう。

また、いもち病や紋枯病、斑点米カメムシ類が多く発生しています。発生状況を確認し、追加防除が必要な場合は収穫前日数に注意して防除を実施しましょう。

2. 乳白米防止のために水管理の徹底

乳白米は、天候や水稻の生育量、肥培管理など様々な要因により発生します。特に登熟期に高温寡照が続くと水不足となって乳白米が多く発生し、品質低下が大きな問題となります。

また、自然由来のカドミウムの吸収を抑えるためにも出穂3週間前～出穂2週間後まで湛水状態を保つようにし、収穫直前の出穂後25日頃までは間断かんがいを続け、早期落水は絶対に避けましょう。

表1 品種・植付時期別の成熟期の予測

品種	植付時期	成熟期予測			
		県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	8月13日	8月11日	8月10日	8月10日
ふさこがね	4月20日	8月19日	8月16日	8月15日	8月15日
コシヒカリ	4月20日	8月28日	8月26日	8月25日	8月25日
	5月1日	9月4日	9月2日	9月1日	9月1日
	5月10日	9月8日	9月6日	9月5日	9月5日
粒すけ	4月20日	8月28日	8月26日	8月25日	8月25日

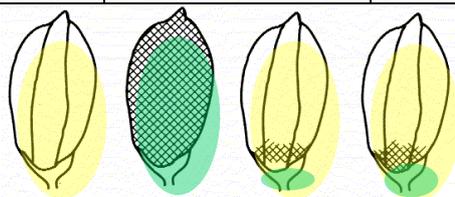
※水稻の生育状況と当面の対策 第5報（千葉県農林水産部 7月26日発表）より

3. 刈取時期の判断について

水稻の刈り取り適期の判定は、一般的に出穂後の日数による判断と帯緑色籾歩合による判断があります。出穂後の刈り取りまでの日数は各品種で異なるので注意しましょう。また、天候不順や高温など天候によっては刈り取りまでの日数に大きく影響を与えるため、登熟ムラの可能性が高くなります。出穂後日数は大まかな目安とし、登熟をしっかりと確認（「**帯緑色籾歩合15%***」）して収穫しましょう。

表2 出穂から刈り取りまでの日数の目安

品種	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
出穂後日数	33日	37日	38日	38日



完全熟籾 帯緑色籾 帯緑色部分

図1 帯緑色籾の見分け方

※帯緑色籾歩合とは籾に少しでも緑色の部分がある籾の割合のことで、帯緑色籾歩合15%の時に収穫を行います。

4. 乾燥・調製について

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させます。乾燥の仕上げ水分は、14.5～15.0%（※）とし、特に過乾燥は避けましょう。

また、乾燥直後の穀温が高い状態で籾摺りを行うと肌ずれ米等が生じやすいため、籾摺りは充分放冷してから行い、籾摺り機のロール幅は品種に応じて調整しましょう。

粒が小さい米が混ざると玄米の粗タンパク含有率が上がり、食味低下の要因となるため、選別は1.8mm以上の網目を使用し、粒張り、食味のよい「おいしいお米」の出荷を目指しましょう。 ※JAにより受ける米の水分値が別に定まっていますので、事前に確認しましょう。

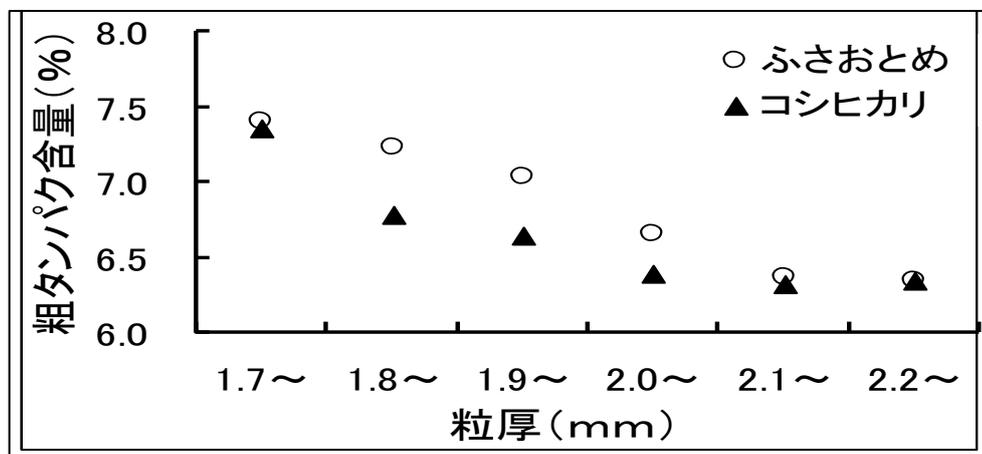


図2 粒厚と粗タンパク含有の関係

5. 生産履歴記帳について

生産履歴簿は皆さんが出荷するお米が、どんな品種で、どんな管理をして、どんな資材を使っているかを確認し、**適切な管理で栽培したことを証明**するためにあります。

出荷にあたっては記入漏れ・記入間違いが無いかももう一度生産履歴簿を確認し、期日までにJAへ提出しましょう。

提出前のチェック項目！

- ①JA名・氏名の記入漏れ、押印漏れはありませんか？
 - ②作付圃場の地番・面積、合計面積に記入漏れはありませんか？
 - ③出穂期を確認して記入しましたか？
 - ④収穫予定日を記入しましたか？
 - ⑤選別網のサイズを確認しましたか？
 - ⑥肥料・農薬の資材名はきちんと記入しましたか？
- ※使用量は10a当たりで記入！
- ⑦JA担当者に中間確認と最終確認をしてもらいましたか？

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

8月は平年より気温が高く、好天が多い予報となっています。コナジラミ類等の害虫の発生には特に注意しましょう。また、一般的に高温時や作物が弱っている時は薬害のリスクが高まるため、薬剤防除は早朝か夕方の涼しい時間に行いましょう。

2. トマト（コナジラミ類・アザミウマ類）



タバココナジラミ



黄化葉巻病被害



アザミウマ

(1) 育苗～定植時期の初期防除を実施しましょう

育苗期～定植時の粒剤・灌注処理は必ず行いましょう。コナジラミ・アザミウマ類は葉裏に寄生します。薬剤を散布するときはノズルを逆手に持つなど、葉裏からも葉がかかるような散布方法も織り交ぜましょう。また、薬剤だけでは防除効果は不十分です。以下の対策も行いましょう。

(2) ハウスへのコナジラミ・アザミウマ類の進入防止対策を実施しましょう

ア. ハウス周辺の除草を実施し、発生源を除去しましょう

コナジラミ・アザミウマ類は雑草にも寄生します。また、野良生えトマト（前作残さ）で見つかることも多いです。アザミウマ類は花にもよく集まるため、花き類・雑草の花も発生源になります。

イ. ハウス内に黄色・青色粘着板を吊るし害虫の予察に努めましょう

微小害虫は発見が難しいため、入口、側窓側、天窗下など害虫の侵入口となる場所を中心に設置し、発生予察を行いましょう。

ウ. ハウスには防虫ネット（0.8mm～0.4mm）を張り、微小害虫の侵入を防ぎましょう

細かいネットは風上側や入口など、害虫が侵入しやすい場所へ展開すると効果的です。

○トマト コナジラミ・アザミウマ類 防除薬剤

薬剤系統	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
材コフ/ド系	4A	ベストガード粒剤 ※1	1～2g/株	育苗期(株元)	どちらか
				定植時(植穴)	1回
ジアド系	28	ベリマークSC	400倍/25ml/株	育苗期後半～定植当日	どちらか
		プリロッソ粒剤オメガ	2g/株 ※2	育苗期後半～定植時	1回
IGR剤	15	マッチ乳剤	2000倍	収穫前日	4回以内
その他	9B	コルト顆粒水和剤 ※1	4000倍	収穫前日	3回以内

※1 コナジラミ類対象 ※2 株元散布。乾燥状態では効果が低いため処理後灌水を行いましょう。

農作業安全 刈り取り前の機械清掃点検実施！

食の安全安心 土壌消毒剤使用時は必ず被覆！

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

3. ネギ（白絹病）

白絹病は高温（30℃程度）と多湿により発生しやすい病害です。地際～地下部の軟白部に白いカビや菌核（白い粒）が発生します。発生後の対策は困難ですので、土寄せを行う時にあわせて予防的防除を実施しましょう。

○ネギ 白絹病 防除薬剤

FRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
7	モンカット粒剤	4～6kg/10a	土寄せ時・ 収穫30日前	3回以内	予防
	モンカットフロアブル40	2000倍			
	アフエットフロアブル	2000倍	収穫前日	2回以内	予防
29	フロンサイド粉剤	15kg/10a	土寄せ時・収穫21日前	2回以内	予防
14	リゾレックス粉剤	20～30kg/10a	土寄せ時・収穫14日前	3回以内	予防
11+4	ユニフォーム粒剤	9kg/10a	土寄せ時・収穫45日前	1回	予防
11	メジャーフロアブル	2000倍	収穫前日	3回以内	予防・治療

4. ダイコン（キスジノミハムシ・ハイマダラノメイガ）

いずれの害虫も子葉展開時から発生し始めますので、早めの防除を実施しましょう。

(1) キスジノミハムシ

早播き（8月中旬～下旬）では被害が多く見られます。成虫は体長数ミリで、食害痕として子葉に小さい穴が残ります。根部の被害は土壌中に潜り込んだ幼虫が原因です。



(2) ハイマダラノメイガ（シンクイムシ）

成虫は体長1～2cmくらいの茶褐色の蛾で、葉裏に産卵します。幼虫は生長点を食害するため欠株の原因となります。本葉1～2枚頃までに防除を行いましょう。



○ダイコン キスジノミハムシ・ハイマダラノメイガ 防除薬剤

対象害虫	IRAC	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
キスジノ ミハムシ	4A	スタークル粒剤	9～12kg/10a	播種時	1回	全面土壌混和
	3A	フォース粒剤	6～9kg/10a	播種時	1回	全面土壌混和
	1B	ラグビーMC粒剤	20～30kg /10a	播種前	1回	全面土壌混和
	28	ベネビアOD	2000倍	収穫前日	3回以内	ハイマダラノメイガ にも登録
ハイマダラ ノメイガ	28	プレバソンフロアブル5	2000倍	収穫前日	3回以内	



いちご定植前(育苗期)病害虫防除プログラム

J A全農ちば 営農支援部

○ミヤコカブリダニ (バンカーシート) を利用した防除体系例

6月	7月	8月	本圃準備	9月	10月～
<p>ハダニ防除 天敵放飼</p>	<p>ランナー 切り離し</p>	<p>化学農薬の 徹底防除①</p>	<p>土壌消毒</p>	<p>定植・ 化学農薬の 徹底防除②</p>	<p>腋芽除去・ マルチ展張</p>
<p>・天敵ミヤコバンカー100個/10a基準放飼 ・ハダニ密度が低下しない場合、リカブリ2000頭/10a同時放飼</p>	<p>・ハダニ密度が低下していない場合、ダニ専門剤or気門封鎖剤を散布 → ・天敵リカブリ2000頭～6000頭/10aを追加放飼</p>	<p>・8月上旬～中旬にアグリメック1000倍散布(ハダニ卵・幼虫・成虫に効果)</p>	<p>本圃定植前準備として土壌消毒を実施 ・前年度、萎黄病や炭疽病が発生した圃場では必須(ホルビクリン、ガスタート微粒剤、太陽熱消毒、土壌還元消毒) ・センチュウ対策としてマトリエース粒剤を定植前に全面土壌混和処理</p>	<p>・定植3日前～当日にモベントフロアブル500倍/50ml/株を灌注処理(or定植前に高濃度炭酸ガス処理) ・アブラムシ・ヨトウムシ発生圃場ではベリマークSC 1000倍/50ml/株を同時に灌注処理</p>	<p>いちご本圃、天敵放飼前のハダニ防除を実施</p>
<p>病害防除</p>			<p>害虫防除</p>		
<p>疫病防除 育苗期：ランマンフロアブル 500～1000倍 50ml/株 灌注 育苗期：オラクル顆粒水和剤 2000～3000倍 50ml/株 灌注 育苗期：リトミルゴールMZ 1000倍 50ml/株 散布</p>					
<p>【6月】 ・バルクトフロアブル 1000倍(炭疽病、うどんこ病 予) ・ジマンガイオン水和剤 600倍(炭疽病 予) ・セビーアフロアブル20 1000倍(炭疽病 予) ・シガナムWDG 2000倍(炭疽病、うどんこ病 予・治) 【7月】 ・トレノックスフロアブル 500倍(炭疽病 予) ・アントラコール顆粒水和剤 500倍(炭疽病 予) ・オソサイト水和剤80 800倍(炭疽病 予) 【8月】 ・トレノックスフロアブル 500倍(炭疽病 予) ・バルクトフロアブル 1000倍(炭疽病、うどんこ病 予) ・セビーアフロアブル20 1000倍(炭疽病 予) ・ゲッター水和剤 1000倍(炭疽病 予・治) (表示：予(予防効果)・治(治療効果))</p>			<p>【6月】 ・チェス顆粒水和剤 5000倍(アブラムシ類、コナジラミ類 浸透移行△) ・天敵ミヤコバンカー、チリカブリ 【7月】 ・ハダニ密度が低下していない場合、ダニ専門剤or気門封鎖剤を散布(天敵導入している場合はダニ専門剤は影響の少ない剤を使用する) 【8月】 ・アグリメック 1000倍(ハダニ類 浸透移行△) 【9月】 ・モベントフロアブル 500倍 50ml/株 灌注(アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ハダニ類 浸透移行◎) ・ベリマークSC 1000倍 50ml/株 灌注(アザミウマ類、アブラムシ類、コナジラミ類、ハモンヨトウ 浸透移行○)</p>		

* 農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際には必ず最新の登録内容をご確認ください

農作業安全 刈り取り前の機械清掃点検実施！

食の安全安心 土壌消毒剤使用時は必ず被覆！

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

加工用途向けブロッコリー品種について

J A全農ちば 営農支援部

1. はじめに

ブロッコリーは栄養価の高さや食材として料理のメインになるだけでなく、付け合わせなどでも使える緑黄色野菜として安定した需要があります。ここでは、令和3年度の試験結果から加工用ブロッコリー向け品種を紹介します。

2. 加工用ブロッコリーに求められるサイズ

歩留まりを考慮し、花蕾直径 16～18cm にて、花蕾が開かず良品質となる大型ブロッコリーが好まれます。



原料に使用される大型ブロッコリー

3. 品種紹介

(1) グランドーム (サカタのタネ)

- ・生食用では播種から 120 日が収穫目安となる中生種ですが、本試験では 128～196 日にて収穫しました。
- ・収穫物の平均重量は 776 g 前後、平均収量で 3.5 t /10a となり、形状も花蕾の締まりもよく、良好な品種でした。
- ・生理障害については、茎内部の空洞が見られたものの、腐敗などは確認されませんでした。ただし、今回の試験では発生しませんでした。気温が低下するとアントシアンが発生する可能性があります。



(2) サミット (ブロード)

- ・生食用では播種から 120 日前後が収穫目安となる中生種ですが、今回の試験では 128～163 日にて収穫となりました。
- ・収穫物の平均重量は 721 g、平均収量は 3.3 t /10a と、グランドームと同等の収量となりました。
- ・草姿はやや立性で生育旺盛であり、花蕾形状もドーム状となり、締まりの良い良好な品種でした。



(3) ドームツリー (雪印種苗)

- ・生食用では播種から120日が収穫目安となる中生種ですが、本試験では138～202日にて収穫となりました。
- ・収穫物の平均重量は871g、平均収量は3.8t/10aと、グランドームを上回る生育となりました。花蕾の締まりも良く、形状もドーム型で良好でした。
- ・茎内部の空洞も確認されましたが、腐敗は確認されませんでした。
- ・今回は確認されませんでしたでしたが、低温時に花蕾部にアントシアンが発生する可能性があります。



(4) AB-180 (ラウンドスター) (朝日アグリア)

- ・生食用では播種から100～105日が収穫目安となる中早生種ですが、今回の試験では103～128日にて収穫となりました。
- ・収穫物の平均重量は838g、平均収量は3.8t/10aと、ドームツリーと同等の生育となりました。草姿は立性で花蕾もドーム状となり良好でした。
- ・生理障害について、茎内部の空洞症状が見られたものの比較的少ない印象でした。



(5) AB-181 (ドリームスカイ) (朝日アグリア)

- ・生食用では播種から110～115日が収穫目安となる中生種ですが、今回の試験では103～128日にて収穫となりました。
- ・収穫物の平均重量は784g、平均収量は3.5t/10aと、グランドーム並みの生育でした。
- ・花蕾はドーム形状で蕾の揃いが良く良好でした。草姿は他の品種と比べてコンパクトに仕上がりに、作業しやすい品種でした。
- ・生理障害については、茎内部にて空洞がみられましたが発生は少なく、腐敗も確認されませんでした。



(6) AB-183 (朝日アグリア)

- ・加工用として播種から145～202日にて収穫を行いました。平均重は660～820g前後と、グランドームを上回る生育となりました。収穫物の平均重量は818g、平均収量は3.7t/10aと、ドームツリー並みの生育となりました。



(7) **ブロッケンHP** (住化農業資材)

- ・生食用では播種から90日が収穫目安となる早生種ですが、今回の試験では110～166日にて収穫となりました。
- ・収穫物の平均重量は753g、平均収量は3.4t/10aと、グランドーム、サミット並みの生育となりました。花蕾の形状は締まり良く良好でした。
- ・アントシアンについては、12月上旬収穫分から花蕾頂部を中心として確認されました。



4. 試験での収穫期間

	11月			12月			1月			2月			3月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
グランドーム				←	←	←	←	←	←	←	←	←			
サミット				←	←	←	←	←	←						
ドームツリー				←	←	←	←	←	←	←	←	←			
AB-180	←	←	←	←	←	←									
AB-181	←	←	←	←	←	←									
AB-183							←	←	←	←	←	←			
ブロッケンHP				←	←	←	←	←	←	←	←	←			

試験場所：JA全農ちば 営農技術センター内圃場

播種日：令和3年8月4日 定植日：8月27日 条間・株間：60cm・35cm 4,762株/10a

安全な農作物生産の取り組みについて

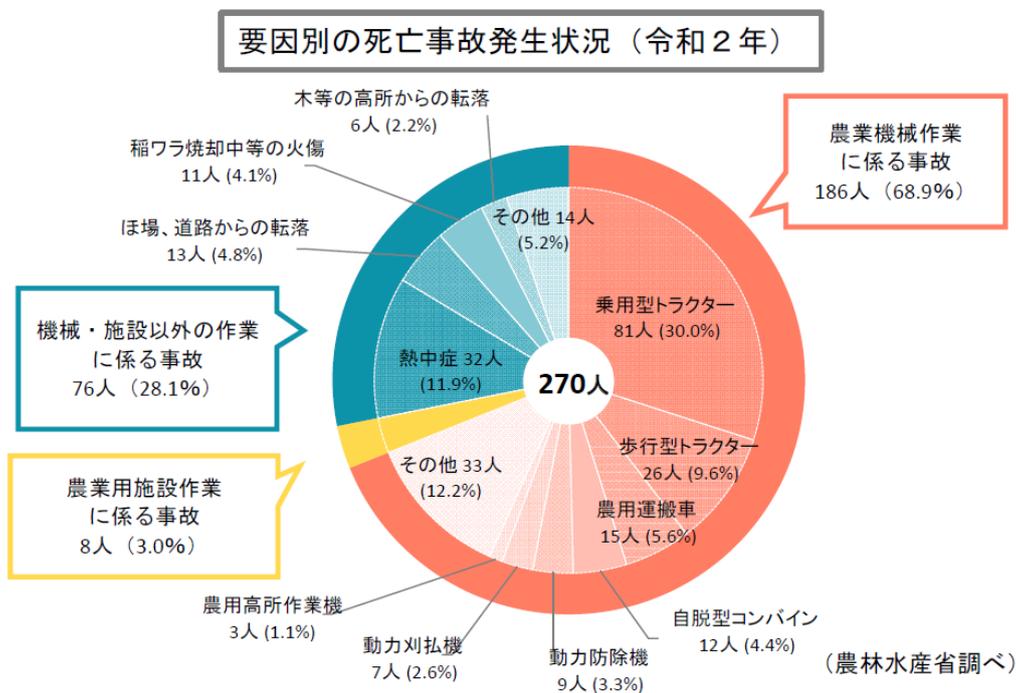
～農作業事故防止～

J A全農ちば 営農支援部

1. 農作業事故の現状

農林水産省では毎年、農作業死亡事故の調査を行っています。**令和2年度の農作業事故死者数は270人**であり、前年より11人減少しています。月別の発生件数では2年連続で**8月が最も多く**、年齢階層別死亡者数では**65歳以上の方が84.8%**を占めている現状です。また、原因としては**機械作業中による事故**が大半を占めています。

「いつも大丈夫だから問題ない」「ちょっとだけだから…」が大きな事故を引き起こしかねません。まずは、**ワンチェック・ワンアクションで農作業安全を心がけましょう。**



農林水産省「令和2年に発生した農作業死亡事故の概要」より引用
<https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/sizai/attach/pdf/220215-4.pdf>

2. 農作業事故の防止

(1) 作業中は**常に注意**しましょう！

作業の終盤や疲れが溜まった際、ふと集中力が切れると事故が起こりやすくなります。特に高所での作業時等は、最後まで気を抜かないようにしましょう。

(2) 作業中のトラブル時は、**必ずエンジン**を止めて**確認**しましょう！

少しの確認をするときでも、必ずエンジンを止めて行いましょう。

(3) 自身の**体に合った服装**で作業しましょう！

機械に巻き込まれる原因にもなります。袖のボタンなどもしっかり留めましょう。

(4) **2人以上での作業・もしくは携帯電話**を持ち歩きましょう！

事故が起きてしまった際に、すぐに助けを呼べる体制で作業しましょう。